

一級河川飯盛川の合流点処理計画に係る 飯盛川調節池に関する説明会



日時：令和8年3月22日（日）・23日（月）
会場：勝呂地域交流センター 多目的ホール

～ 説 明 内 容 ～

1.入間川プロジェクト

(1)令和元年東日本台風による被害記録とプロジェクトの概要について

2.合流点処理計画

(1)調節池、堤防嵩上げ、排水機場の増設について

3.調節池の計画決定について

(1)決定した計画について

(2)調節池計画の詳細

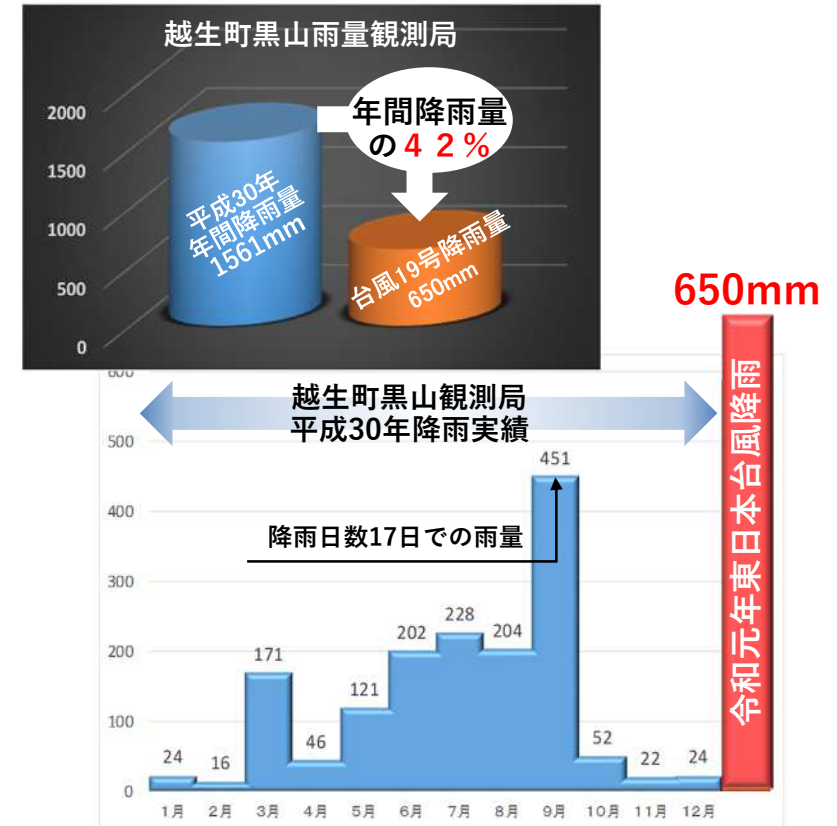
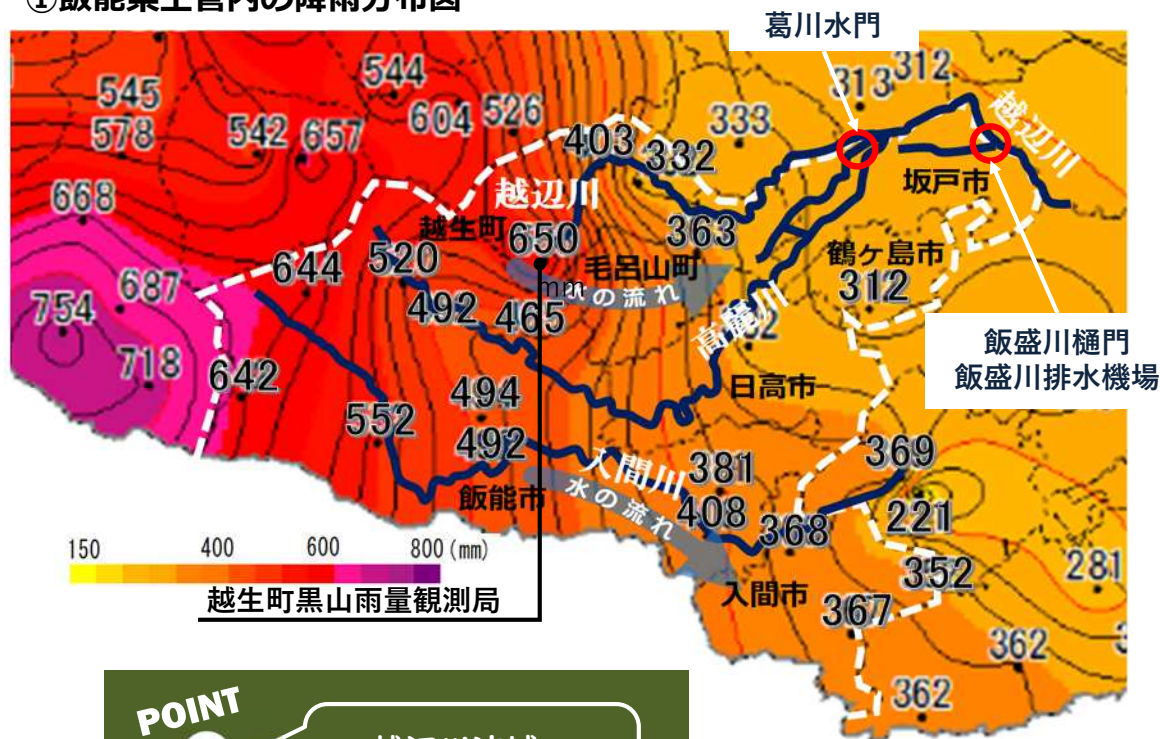
4.市道、水路の付替対象範囲(案)

(1)既存市道・水路の付替え検討

5.事業スケジュール

1 入間川プロジェクト (1)被害記録

①飯能県土管内の降雨分布図



③浸水エリア位置図



②河川別の流域被害状況

河川名	浸水被害状況
飯盛川	浸水面積 A=250.1ha 床上浸水 N= 4戸 床下浸水 N=17戸
葛川	浸水面積 A=25.0ha 床上浸水 N=71戸 床下浸水 N=35戸

1 入間川プロジェクト (1)被害記録

①飯盛川流域溢水状況



➤台風第19号の豪雨により、飯盛川流域では越辺川合流点付近から溢水し、越辺川霞堤北側の地域が浸水した。

➤越辺川右岸0.0k付近においては堤防が決壊し、越辺川霞堤の南側の広範囲において浸水した。



飯盛川(樋門部)のピーク水位はAP+18.03mを記録し、排水機場機能不全水位18.00mを上回った。

②飯盛川最下流部(越辺川合流点)溢水状況



飯盛川最下流部(越辺川合流点)溢水状況

③飯盛川(坂戸市道：荻野2号橋) 溢水状況



飯盛川(坂戸市道：荻野2号橋) 溢水状況

1 入間川プロジェクト (1)プロジェクトの概要

1) 「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」の策定（令和2年1月31日記者発表）

➤プロジェクトの目的とは……

令和元年東日本台風において甚大な被害が発生した荒川水系入間川流域における今後の治水対策の取組みとして、地域が連携※1し、多重防御治水※2により「社会経済被害の最小化」を目指す。

※1 地域連携

関係する流域を所管する行政機関が連携しプロジェクトの目的を目指す。



※2 多重防御治水

三位一体となって取組む治水対策

- 1 河道の流下能力の向上による、**あふれさせない対策**
- 2 遊水・貯留機能の確保・向上による、**計画的に流域にためる対策**
- 3 土地利用・住まい方の工夫による、**家屋浸水を発生させない対策**

①多重防御治水の概要

1

河道の流下能力の向上

- 河道内の土砂掘削、樹木伐採による水位低減
- 堤防整備（掘削土を活用）

2

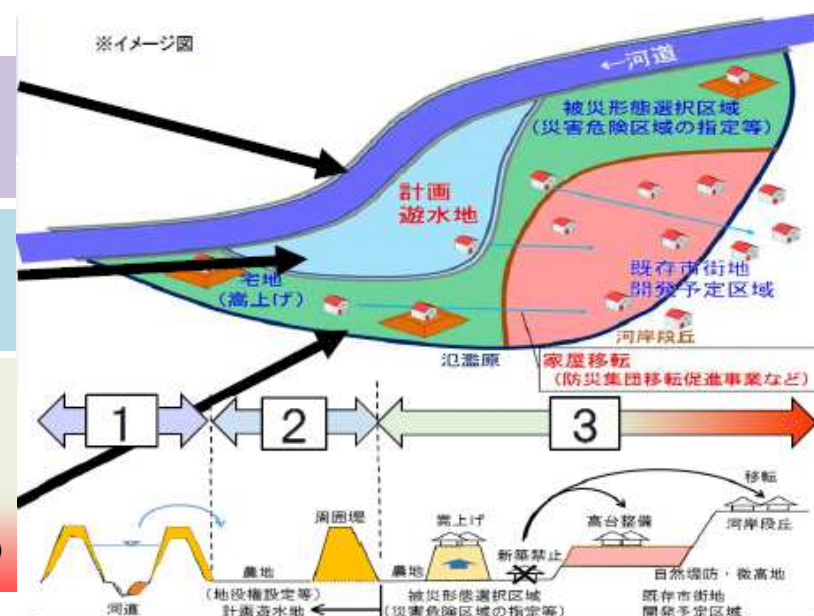
遊水・貯留機能の確保・向上

- 地形や現状の土地利用等を考慮した遊水地等の整備
- 既存ダムの洪水調節機能強化

3

土地利用・住まい方の工夫

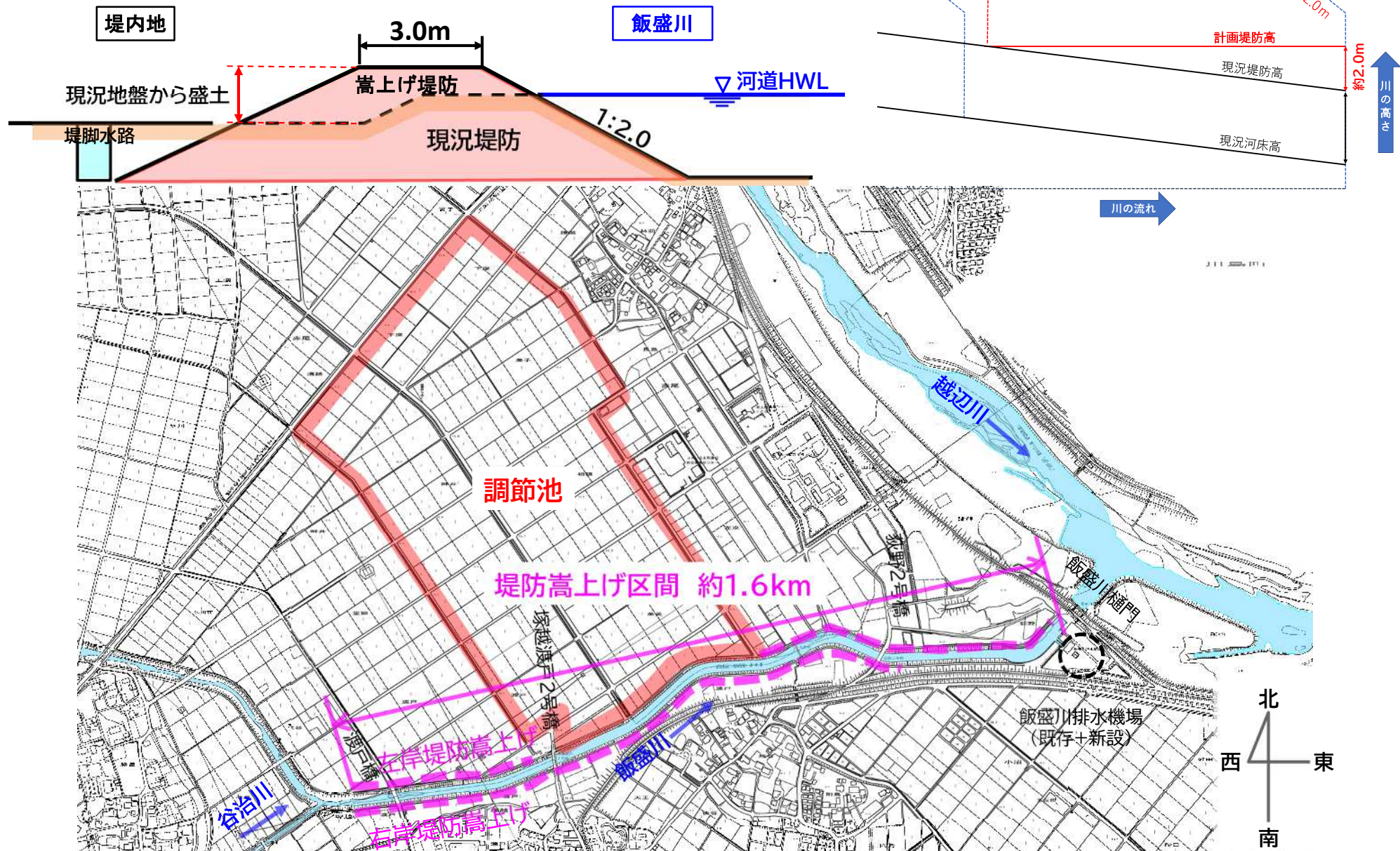
- 洪水が想定される区域の土地利用制限（災害危険区域の設定等）
- 家屋移転、住宅の嵩上げ（防災集団移転促進事業等）
- 高台整備（避難場所等に活用）
- 土地利用に応じた内水対策の検討（雨水流出抑制対策、合流点処理検討等）



2 合流点処理計画 (1)調節池、堤防嵩上げ

・調節池、堤防嵩上げ整備

調節池の整備と、現況堤防の嵩上げを行います。



2 合流点処理計画 (1)排水機場の増設

・排水機場の増設

調節池の整備、堤防嵩上げとあわせて、既存の排水機場(排水量 $7\text{m}^3/\text{s}$)の横に新たに排水機場(排水量 $13\text{m}^3/\text{s}$)を増設します。



POINT



既存の排水機場の横に、新たに排水機場を増設します。
排水機場によって飯盛川の河道内に溜まった水を越辺川へ放流し、
飯盛川沿川の浸水被害を軽減します。

3 調節池の計画決定について (1)決定した計画について

・調節池の計画について

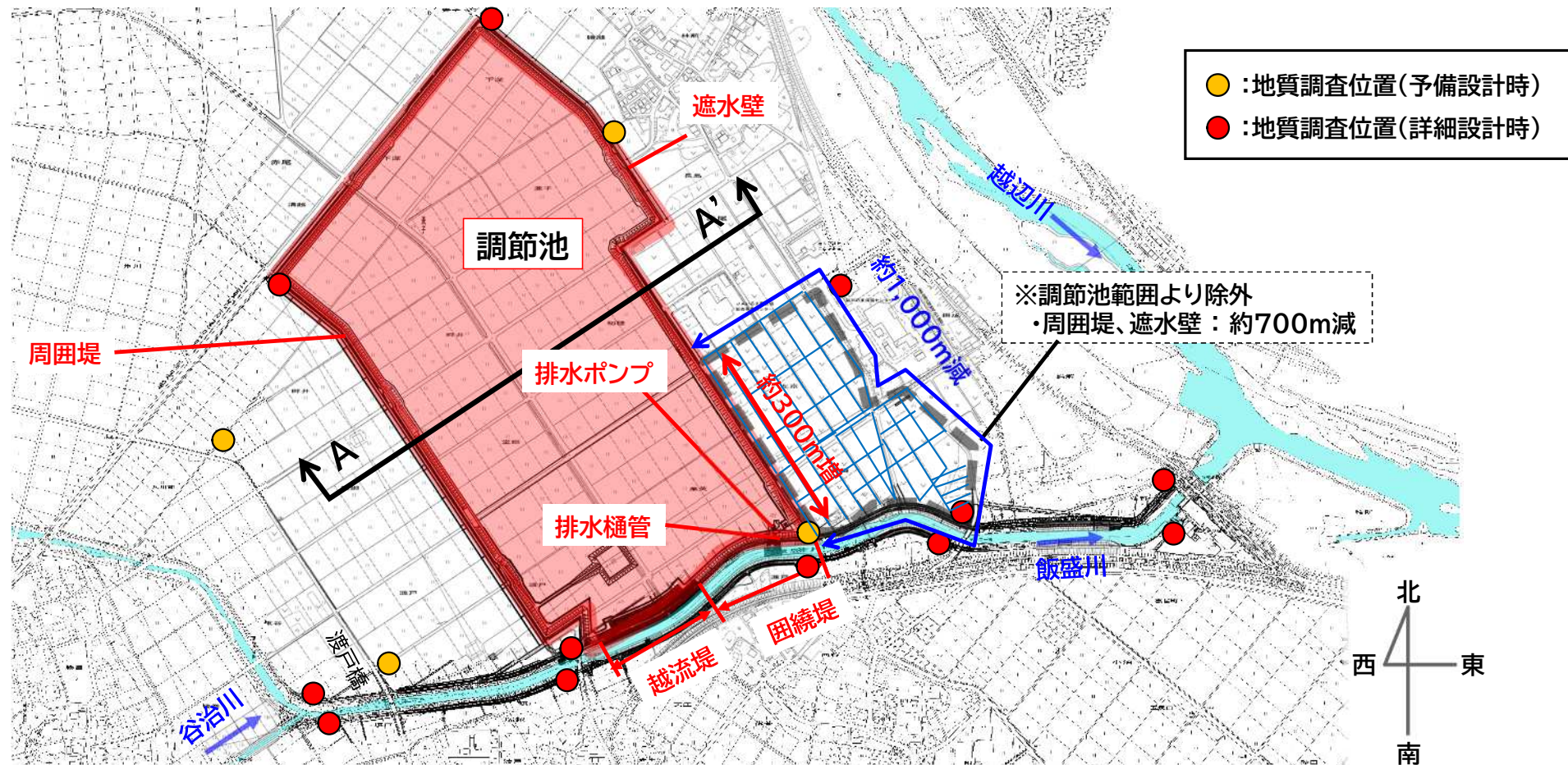
詳細な検討の結果、コスト縮減・事業効果の早期発現が期待できる整備エリアとした。

概要図	予備設計時		決定した計画	
概要	調節池は予備設計の範囲。排水方法は、排水樋管による自然排水方式とする。		調節池エリアから緑色エリアを外した範囲とする。計画容量確保のために池底高を下げる。排水方法は、排水樋管による自然排水とポンプによる強制排水方式とする。	
調節池容量	154.5万m ³ (計画容量)確保		154.5万m ³ (計画容量)確保 調節池面積を縮小した上で計画容量(1,545,000m ³)を確保	
事業費	△	・自然排水のため排水ポンプの維持管理費が不要であるものの、調節池の全体面積が大きいため、決定した計画と比較して掘削・築堤・遮水工等が大きくなり全体事業費が増大する。	○	・予備設計時の計画と比べ排水ポンプの設置が必要となるが、調節池エリアの縮小により掘削・築堤・遮水工等が縮小し全体事業費の縮減が可能となる。
総合評価	△	・緑色エリアには令和元年～3年に公金により農業パイプライン(農業用水を送排水するための管路)が整備されており、早期の撤去が難しい。 事業費の増大および調節池工事の早期着手が困難となるため、事業効果の発現に時間を要する。	○	・工事の進捗に支障となる農業パイプラインの移転が不要となる。 ・事業費が縮減できることに加え工事の早期着手が可能となり、事業効果の早期発現が期待できる。

3 調節池の計画決定について (2)調節池計画の詳細

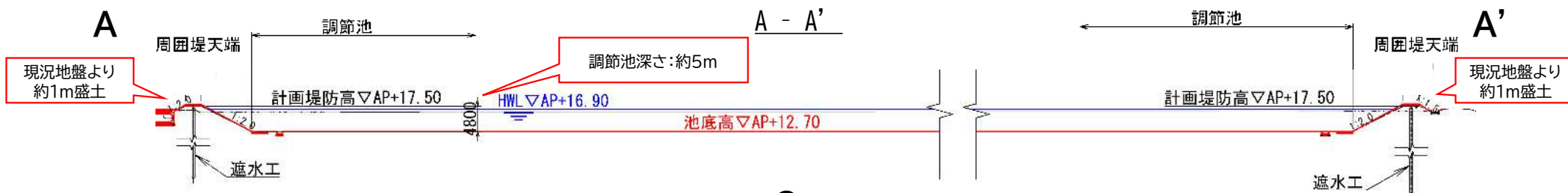
・調節池の構造概要

調節池の整備に伴い、越流堤・周囲堤・遮水壁・排水樋管・排水ポンプ等を整備します。
エリアを縮小し、赤エリアを調節池範囲とします。



堤内地(西側)

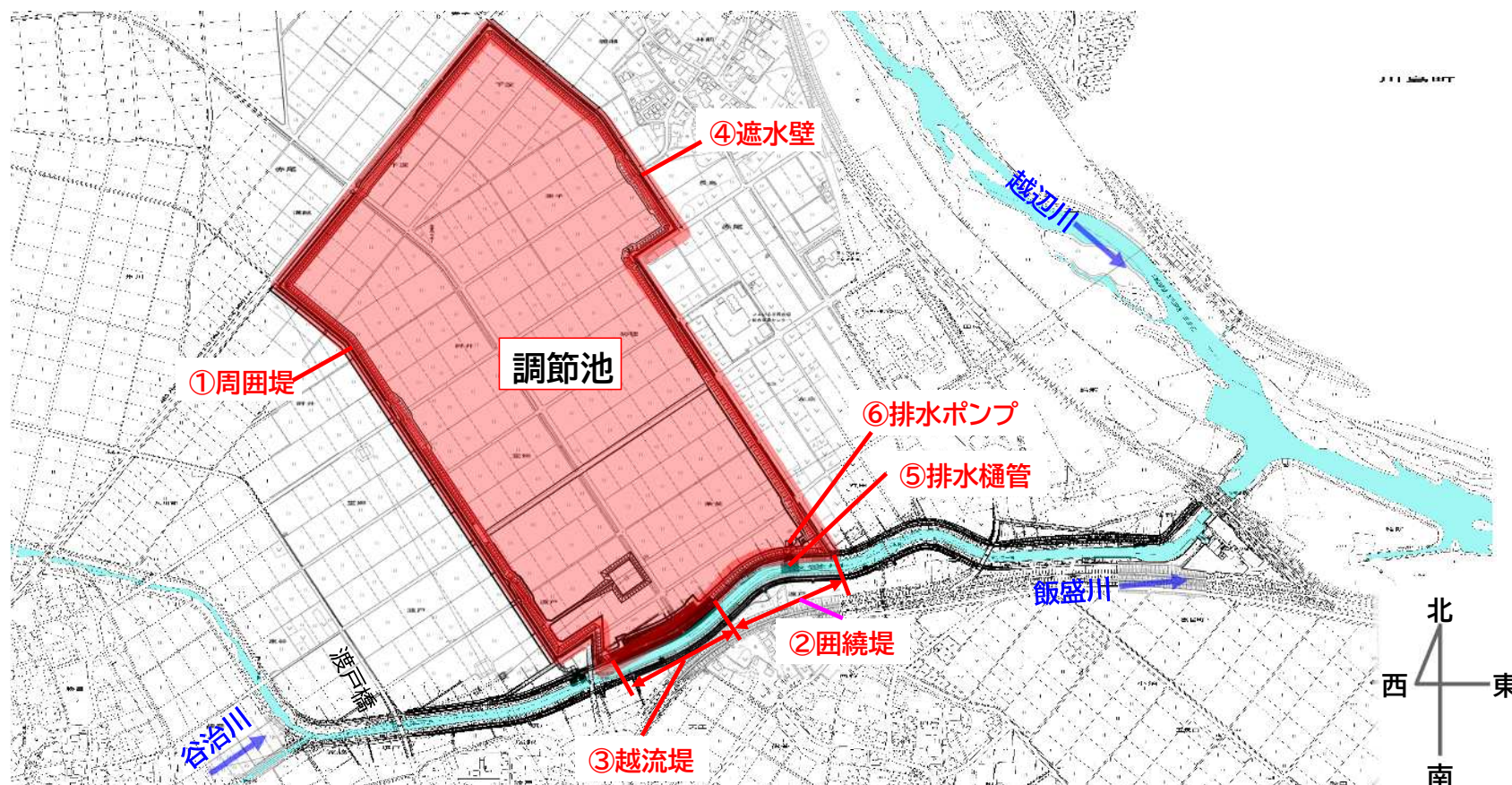
堤内地(東側)



3 調節池の計画決定について (2) 調節池計画の詳細

・調節池の構造概要

- ① 周囲堤……調節池と堤内地(住居や農地のある側)を仕切るための堤防で、調節池内の水が堤内地へ溢れないようにするもの
- ② 囲繞堤……調節池と河道を仕切るための堤防
- ③ 越流堤……堤防の一部を切り下げ、洪水の一部を越流させて調節池内に貯留し、洪水調節をするための堤防
- ④ 遮水壁……周辺の地下水低下防止(堤内地から調節池内への地下水の浸透を防ぐ)のために周囲堤に設置するコンクリート壁
- ⑤ 排水樋管……洪水後に調節池内に溜まった水を排水するための施設
- ⑥ 排水ポンプ……河川平水位(平均的な水位)より下の水を強制排水するための施設【次ページ参照】



3 調節池の計画決定について (2)調節池計画の詳細

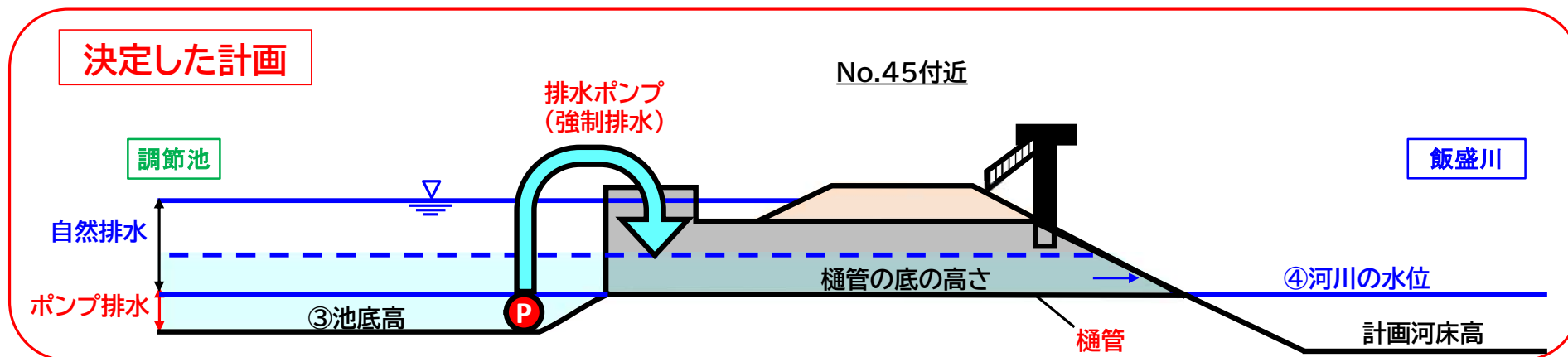
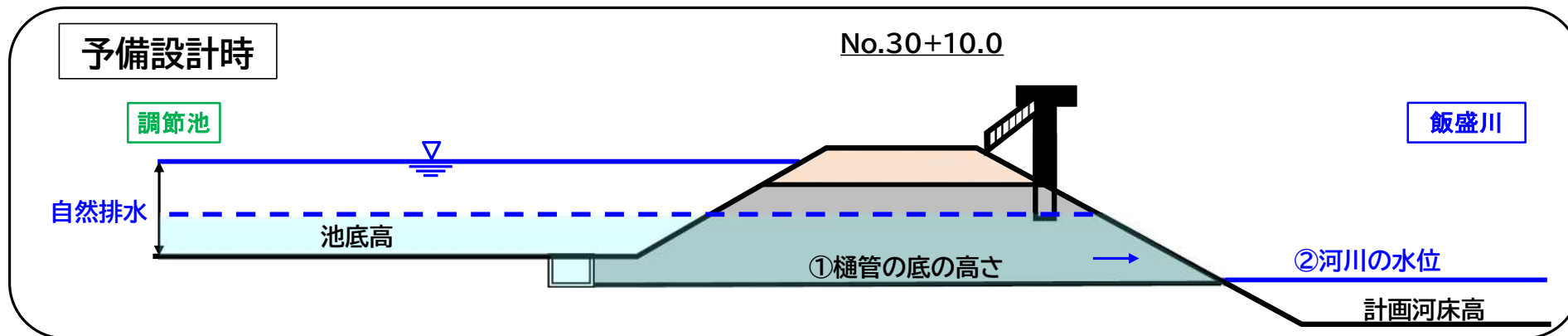
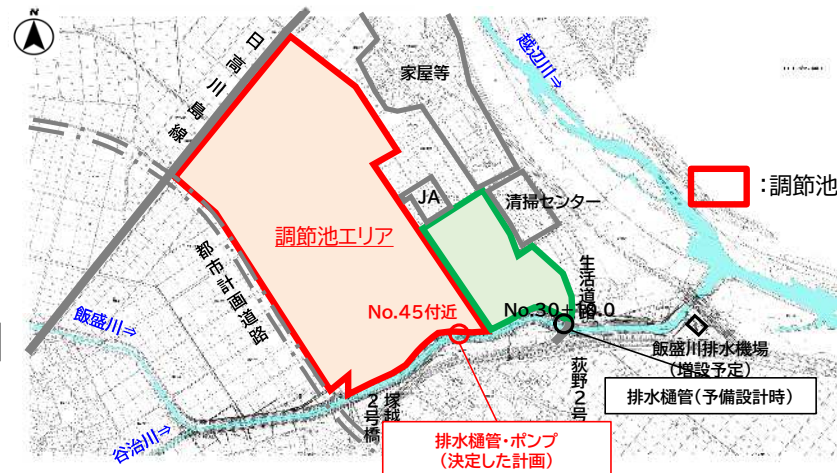
・排水方式の概要

■予備設計時

「①樋管の底の高さ」と「②河川側の水位」の高さが同じなため、調節池内の水は自然排水となります。

■決定した計画

「③池底高」より「④河川側の水位」の方が高いため、「④河川側の水位」より下の水は排水ポンプによる強制排水が必要となります。



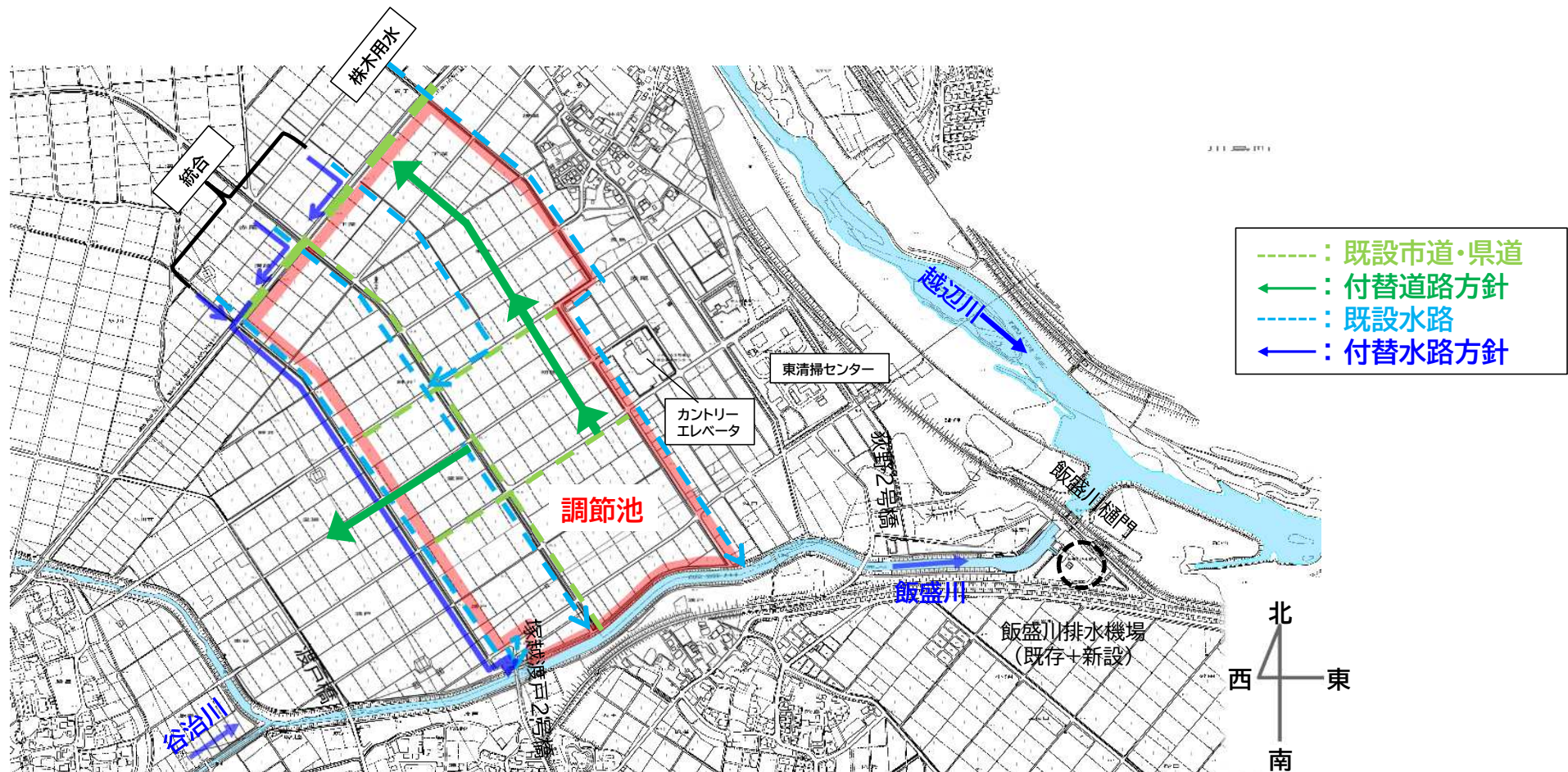
4 市道、水路の付替対象範囲(案) (1)既存市道・水路の付替え検討

・既存市道・水路の付替え検討

イメージ図

以下の方針に基づき、市道及び水路の移設先を管理者である坂戸市、水路管理者と協議を進める。

- ①カントリーエレベータ、東清掃センターへのアクセス機能を確保する
- ②池東側に位置する住宅地への車両流入を防止する
- ③株木用水以外の既設3水路を統合し、西側に合流後の流量が確保できる水路を整備する



※本資料は、現時点の検討であり、今後の検討状況により変わる場合があります。

5 事業スケジュール

※スケジュールについては、用地買収状況や社会情勢により変わる場合があります。

用地測量

土地評価から補償額算定

用地交渉から土地引渡

本体工事

(完了)

令和7年7月～

令和8年1月～

令和10年7月頃～

項目	R6			R7					R8			R9				R10				R11以降
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	
①用地測量		完了						現在												
②詳細設計				完了																
③土地評価 物件調査 補償額算定						7月														
④用地交渉 契約締結 土地引渡								1月												
⑤本体工事																	7月頃			